614 運動時右室機能の研究－心プールシンチ及び観血的血行動態からの検討

北瀬 裕敏，山辺 裕，須田研一郎，森 孝夫
伊藤 和史，高田 輝雄，前田 和美，福崎 恒
（神戸大学第一内科）

非弁膜症性の心疾患患者において，運動時の右室機能を心プールシンチと運動時血行動態を用いて検討した。運動時の右房圧の上昇に対する右室仕事係数の増加から右室予備能を評価し，右室予備能良好群（1群 n＝7）と不良群（2群，n=5）に分類した。最大心拍出係数（max CI）は1群に比し2群で有意に小であった。（6.68±1.40 vs 4.87±0.39 ℓ/min/m²，P〈0.05)。

LVEF は両群ともに運動で増加したが，RVEF は1群で増加したのに対し2群では増加しなかった。運動時のRVEF は両群とも肺動脈収縮期圧（SPAP）と負の相関を示したが（1群，RVEF＝－0.68 SPAP+87，r＝－0.82，2群 RVEF＝－0.81SPAP+89，r＝－0.92)，その傾きは2群でより急俊な傾向にあった。以上より運動時右室予備能の障害はmax CI を低下させる要因であり，運動時の右室後負荷の増大が右室収縮能の障害を招来する重要な因子であると結論した。

615 運動負荷心臓核医学検査時の呼気ガス分析の有用性について

岡野光志[1]，大鈴文孝[1]，永吉広和[1]，密岡幹夫[1]，真家伸一[1]，悦喜 豊[1]，妹尾正夫[1]，柳田茂樹[1]，勝然秀一[1]，瀬口秀孝[1]，深堀正美[1]，青崎 登[1]，中村治雄[1]，宍戸敏彦[2]，工藤安幸[2]，末岡貞登[2]，高梨秀子[2]，竹中栄一[2]，
（防衛医大第1内科[1]，同放射線科[2]）

今回我々は呼気ガス分析器を用い運動負荷前後で、15秒毎にVO_2，VCO_2，VEなどを測定し心拍数(HR)，収縮期血圧(SBP)，負荷心電図，心筋シンチグラムの各種パラメータ，心プールシンチによるEFの変動などと対比検討した。対象は虚血性心疾患11例、高血圧性心疾患1例の計12例である。anaerobic threshold(AT)出現時負荷量と経時的ST変化変曲点，心拍数変曲点とはほぼ一致していた。また1例のみであるがEF変曲点と一致をみた症例もあった。

Presented by Medical*Online